

高校生によるフェアトレードプロジェクト

所属	大同大学大同高等学校	実践者	伊藤 佳貴 (G)
対象	高校2年生	時間数	7時間
場所	教室、大会議室、ほか	実践教科	英語、総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル素材で作られたポーチから「今日のガーナが抱える問題」を知る。 ・ガーナの聾学校との交流活動を通して、世界とつながることの喜びや感動を体感する。 ・活動全体を通して世界の様々な問題に気づき、そこから「私にできること」を見出し、実行する。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	「ガーナと日本のつながりは？」 ・写真や動画、実物教材を使って、ガーナを紹介する。 ・そこから、ガーナと日本の共通点や相違点を見つける。	写真、動画、実物教材 (ガーナで購入した品)
	2	「世界で何が起きているの？」 ・新・貿易ゲームを使って、世界の経済活動を疑似体感する。 ・ゲームを通して世界における様々な問題に気づく。	ゲーム道具一式
	3	「フェアトレードに挑戦しよう！」 ①「このポーチ、どこから来たの？」 ・ポーチを手にとりながら、ポーチの出来た背景を想像する。 ・ポーチに使われている材料から、ガーナの課題を考える。	実物教材(ポーチ)
	4	②「ポーチの適正な価格を決めよう！」 ・材料費やガーナの物価を考慮しながら、適正な価格を決める。	ポーチ200個
	5	③「文化祭でポーチを販売しよう！」 ・9月27日の文化祭にて企画「ガーナを体験しよう」を開催する。 ・ポーチ販売に加えて、「籠載せ体験」「ガーナ料理体験」を実施する。	料理体験:フフ、フライドプランテン 籠載せ体験:たらい
	6	「ガーナの友だちに手話メッセージを送ろう！」 ポーチを作ったガーナの友だちに向けて、手話でメッセージを送るために、英語の手話を学び、ビデオ収録して送る。	手話講師:千原邦彦氏 (本校卒業生)
	7	「私にできる国際協力」 このプログラムでの経験を活かして、私たちがすべき国際協力の在り方を考える。また、それに向けて「私ができることは何か」を考え、模造紙にまとめる。	
成果	実際にフェアトレードを体験することによって、多くの生徒に「自分にも国際協力ができた」という自信が生まれた。また様々な活動を通して、多様な個性や意見に対して寛容な姿勢で向き合うことのできる生徒が増えた。		
課題	英語教育の学習活動の中に、こうした参加型学習の手法を取り入れていきたい。また、ガーナの学校との交流については、今年度限りのものとせず、今後も継続的に取り組んでいけるように具体的な手立てを検討したい。		
備考	上記の実践に加えて、JICAガーナICT分科会の協力によるガーナの学校とスカイプを使った交流授業の実践を計画している。(平成27年2月13日実施予定)		

[授業実践の詳細]

1 時限目「ガーナと私のつながりは？」

1 子どもの活動の流れ

- ① 「ガーナ」と聞いて、頭に浮かんだ言葉をポップコーン形式で挙げる。
- ② 世界地図を用いて、ガーナの位置や日本からの航空経路、所要時間を知る。また、教師の解説によって、基本的な情報(国土や人口など)を確認する。
- ③ パワーポイントによるガーナの体験話をクイズ形式で聞きながら、ガーナの魅力を知る。また、実物教材(楽器、民芸品、食品など)を手にとって、ガーナを体感する。

この時限のねらい

ガーナの文化紹介や実際の体験談を通して、ガーナやアフリカに対する固定観念を解く。その上で、異文化を肯定的に受け入れ、その多様性を楽しむ心を養う。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 最初、生徒たちが「ガーナ」という言葉から連想したイメージは、「チョコレート」「野生動物」「自然がたくさん」といった典型的なものが多く、それに次いで、「ちょっと怖い」「病気が心配」「貧しい」といった最近のアフリカ諸国のニュースから連想された内容であった。予想通りであったが、この段階でまだガーナは、生徒たちにとって遠い存在であり、当然ながら描かれる印象もステレオタイプなものであった。
- ◇ クイズを交えながら、ガーナの人々やその暮らしを紹介した。紹介する写真一枚一枚に対して、生徒からは大きな反響があった。疑問点には遠慮なく質問が投げかけられ、解説に対しては、大きく「へえ～」と頷く声が聞こえた。生徒たちにとって、ガーナは地理的にも遠い存在であるが、この一回の授業だけでも、生徒の心がガーナにグンと近づいたことを実感した。

3 使用した教材

<教材1> パワーポイント・・・ガーナを紹介する内容

<教材2> 実物教材(ガーナで入手した品物)・・・歯磨き用の木、アサラド、カカオ豆、コーヒー豆、ガーナ産チョコレート、手編みのバッグ、各種パンフレット、英語の本、など

2 時限目「世界で何が起きているの？」

1 子どもの活動の流れ

- ① 新貿易ゲームを体験する。
- ② ゲームを振り返りながら、貿易を中心とした世界経済の仕組みを理解した上で、自由貿易やグローバル化によって引き起こされる様々な問題に気づく。

この時限のねらい

フェアトレードを実践する準備として、ゲームを通して、貿易を中心とした世界経済の仕組みを理解し、その上で、自由貿易やグローバル化によって引き起こされる様々な問題に気づく。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 先進国グループが、積極的に全体(=世界)をリードする形でゲームが進み、短時間で「貿易から見る世界の構図」が作り出された。
- ◇ ゲームの振り返りにおいて、生徒たちから「貧富の差」「過剰な生産活動」「環境問題」「不正な貿易」などの諸問題が浮かび上がったことが指摘された。また、開発途上国グループの生徒から「開発援助の必要を訴えたが、みんな自分たちの事に一生懸命で、悲しかった。」という意見も出た。この活動を通して、生徒たちは、日常生活からでは見えにくい「世界の課題」を見出し、聞くことのできない「開発途上国の声」に耳を傾けることができたように思う。



3 使用した教材

<教材3> 『新・貿易ゲーム 改訂版』 2009年 制作・発行:開発教育協会・神奈川県国際交流協会

3 時限目「このポーチ、どこから来たの？」

1 子どもの活動の流れ

- ① ポーチを作っている場面の写真を見ながら、作っている人についてフォトランゲージにより表現する。
- ② 実際にポーチを手にとりながら、ポーチの感想を英語で表現する。
- ③ ポーチから見えるガーナの課題について考える。
- ④ ポーチ作成の指導をしている海外青年協力隊員・丸山ちさとさんの活動内容について知る。

この時限のねらい

ピュアウォーターの袋を再利用して作られたポーチから、水道インフラの問題、環境問題、障害者の雇用問題など、様々な問題が見えることに気づく。そして、それらの問題に取り組む海外青年協力隊員の姿があることを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 蛇口の栓をひねれば飲み水が出てくる環境に育った生徒にとって、袋入りピュアウォーターの存在は衝撃的であったようだ。日頃の生活ではなかなか感じることはない「水があること」への感謝を、このポーチを通して改めて感じていたようだ。
- ◇ 日頃の授業では、英語による自己表現が苦手な生徒も多く見受けられるが、今回は、ガーナの友だちへのメッセージということもあり、真っ赤な顔で照れながらも発言しようとする生徒の姿が印象的であった。
- ◇ 丸山ちさとさんをはじめ、私がガーナでお会いした海外青年協力隊員の紹介は、将来の進路目標について日々考えている高校2年生にとっては、強いメッセージとして伝わったようである。

3 使用した教材

<教材4> 実物教材・・・ピュアウォーターポーチ 200個、ピュアウォーターの空き袋

<教材5> アシヤンティ聾学校を紹介するプリント教材(作成者:青年海外協力隊員 丸山ちさとさん)

<教材6> パワーポイント・・・ガーナで活躍する青年海外協力隊員を紹介する内容



4 時限目「ポーチの適正な価格を決めよう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① フェアトレードについて、その意義や仕組みを知る。
- ② 材料費や物価を考慮しながら、ポーチの適正価格をグループごとに考え、ポスターを作る。
- ③ 各グループがポスターによる発表をし、それをもとに全体で話し合っ、販売価格を決める。

この時限のねらい

フェアトレードの目的や仕組みについて学習した上で、文化祭で販売するポーチについて、材料費や物価を考慮しながら、ポーチの適正価格を話し合い、実際の販売価格を決める。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 活動内容が、模擬的なものではなく、実際に販売することであるためか、生徒たちの取り組み姿勢に一層真剣さがみなぎっているように感じられた。「幾らなら買うか」「その金額は適切か」など、活発に検討を重ねる光景は、まるで一企業の販売企画会議のようであった。

3 使用した教材

<教材7> フェアトレードジャパンのサイト内情報 <http://www.fairtrade-jp.org/>

<教材8> ピープルツリーのサイト内情報 <http://www.peopletree.co.jp/>

<教材9> アシヤンティ聾学校を紹介するプリント教材(作成者:青年海外協力隊員 丸山ちさとさん)

5 時限目「文化祭でポーチを販売しよう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① ピュアウォーターポーチの販売を行う。販売するにあたり、作成者の紹介(写真)や材料の説明を行う。
- ② ガーナ料理体験として、ガーナの主食であるフフト、プランテン(料理用バナナ)のフライを作り、来場者に試食してもらう。

- ③ 籠載せ体験として、来場者の頭上にプラスチック製のたらいを載せてもらい、歩いてもらう。また、その状態で記念写真を撮影する。
- ④ 3つの体験について、それぞれの感想を付箋紙に書き、模造紙に張り付ける。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 生徒たちが、協力し合って一生懸命販売する姿が感動的であった。また、来場された一般の方々も、興味深げにポーチを手に取り、生徒の説明に聞き入っていた。売り上げや儲けではなく、ポーチに込められた「思い」が人から人へと伝わっていく様子が感じられる実践風景であった。
- ◇ 本物のガーナ料理など食べたことの無い生徒たちばかりであるが、レシピを頼りに協力しながら調理して、来場者に振る舞った。「たぶんこんな味なのでしょう」と言いながら、料理を通して遠い国ガーナに思いを馳せる生徒たちの姿が印象的であった。
- ◇ 籠載せ体験では、どの参加者もタライを頭に載せて立つことが精一杯で、タライにモノを入れて運ぶなど不可能であった。頭にミネラルウォーターの入ったタライを載せ、余裕の笑顔でカメラに映るガーナ人の写真パネルを見て、どの参加者も異口同音に驚嘆の声をあげていた。

この時限のねらい

フェアトレード実践では、単にモノを販売するのではなく、その品に秘められた思いを伝えられるように心がける。また、体験型のイベントを通して、生徒たちが学んできたガーナについて、今度は伝える側に立ち、来場された方々に、楽しみながら知ってもらう機会とする。

3 使用した教材

<教材10> ガーナボックス (提供:JICA中部)

<教材11> 実物教材(料理体験用)・・・フフミックス(フフを作るインスタントの粉)、フレッシュプランテーション

<教材12> 実物教材(籠載せ体験用)・・・プラスチック製のたらい、バランス用のタオル

6 時限目「ガーナの友だちに手話メッセージを送ろう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① 手話講師*より、アメリカ手話(ASL)について簡単な説明を受ける。
※ 本校卒業生で名古屋外国語大学2年の千原邦彦さん
- ② ガーナの友だちに伝えたい思いを英語にして、その手話表現を講師から学び、表現できるよう練習する。
- ③ 手話で表現できるようになったら、ビデオを通して感謝の思いを伝える。

この時限のねらい

ポーチを作って日本に送ってくれた感謝の思いを、ガーナのアシャンティ聾学校の友だちに伝えるため、彼らの言語である英語手話を学び、メッセージを送る。そして、その模様を YouTube に限定公開して、アシャンティの生徒たちに観てもらおう。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 実際にビデオ撮影した生徒からは、「自分の思いが手から言葉として伝わって感動した。」「もっと長いフレ

ーズを表現できるようになりたい。」「自分の手話が伝わるかと想像するととても嬉しい。」「これを機にもっと手話を覚えたい。」など、誰もが熱い思いで活動を振り返った。

- ◇ 英語の手話は生徒たちにとっても好評であったため、今回の活動の後、クリスマスソングの“We Wish You a Merry Christmas.”を英語手話で学び、この模様もYouTubeで限定公開しアシャンティの生徒に観てもらった。なお、こちらは、常葉大学の柴田里実先生から手話指導を受けて、実施した。

7 時限目「私にできる国際協力」

1 子どもの活動の流れ

- ① 今回のプロジェクトを通して、「わたしがしたこと」を振り返る。
- ② その「わたしがしたこと」の積み重ねが、どれだけ大きな成果をもたらしたかを全体で共有する。
- ③ 世界には「人権」「貧困」「教育」など様々な問題があることを改めて理解する。
- ④ これからの生活において、以下の3つの視点から「私にできること」を考えて、付箋紙に書き出す。
「わたしのためにできること」「あなたのためにできること」
「みんなのためにできること」
- ⑤ 書き出された付箋紙の内容を学級全体で共有する。

この時限のねらい

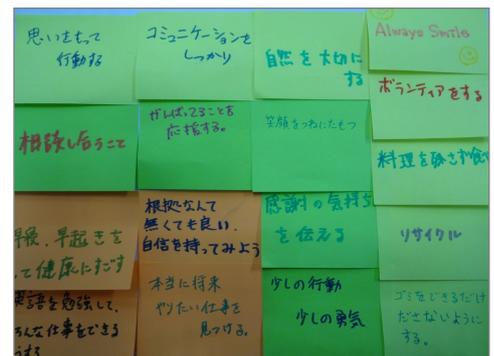
本プロジェクトを振り返ることで、生徒一人ひとりの小さな力が、学級全体としてどれだけ大きな成果をもたらしたのかを改めて実感する機会とする。その上で、一人ひとりが自信をもって次の一步を踏み出せるよう、「私にできること」を書き出して、学級の仲間と共有する。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 今回のプロジェクトを通して、多くの生徒から「自分にも国際協力ができた」という自信を感じることができた。そして、それによって彼らの自己肯定感が育まれたようにも感じられる。それを示す具体的な事例として、学級内での生徒間トラブルや問題行動などが減少したことが挙げられる。さらに、多様な個性や意見に対して、学級全体が寛容な姿勢で受け入れられる環境になったことも大きな変化と言えよう。どちらの変化も、学級担任としては、この上ない喜びである。

- ◇ プロジェクトを通して、生徒たちは多くの海外青年協力隊員と間接的に接する機会が与えられ、そこで多くの隊員の人生を垣間見ることができた。このことは、高校2年生の生徒にとっては、自己の進路を見つめなおすという点でも、とても良い刺激になったようだ。最近では、多くの生徒から「先生、もう一度進路について考えてみる。」という声が、私のところに寄せられている。生徒たちの今後の努力に期待したい。

- ◇ なお、この活動の一部をYouTubeにおいて限定公開している。
 - ・ Pouches Full of Dreams (夢いっぱいポーチ)
<http://youtu.be/3ivUdOOBGVk>
 - ・ “We Wish You a Merry Christmas”
<http://youtu.be/FoGukaBkiTQ>



■ 全体を通して

1 授業の様子

<写真1>

ガーナから届いたポーチの箱を開けた瞬間、生徒たちから一斉に歓喜の声があがった。



<写真2>

文化祭でポーチを販売しているところ。ケンテという織物やろうけつ染めなど、様々なポーチがある。



<写真3>

籠載せ体験にてタライを頭に載せてはいポーズ。ピースサインで決めるも一歩も歩けず…。



<写真4>

英語手話を使って感謝のメッセージを送った。これは、両手を広げて”Thank you.”のサイン。



2 参考文献・資料

- 1) 高根 務, 山田肖子編著(著) 『ガーナを知るための47章』 2011年 明石書店
- 2) 堀米 薫(著), 小泉 るみ子(イラスト) 『チョコレートと青い空』 2011年 そうえん社